



広報

～市民と行政の架け橋～

にかほ

母なる川に 生命のドラマ

～長旅を終え産卵のため、サケが帰郷～

秋田県内で一番多くサケが遡上する川袋川では今年も、人とサケの生命のドラマが繰り広げられていました。(10月下旬:川袋川やな場)

主な内容

- そうだ 図書館に行こう! P 2～3
- 大切な水資源を守るために P 4～5
- クライストチャーチ市が来訪 P 6～7
- まちの話題 P 8～9
- 行政情報チャンネル P 11～14
- 暮らしの掲示板 P 15～17
- 戸籍の窓口、11月のカレンダー P 19

vol.195

2013

11.1

がんばろう東北

一緒に歩こう にかほ市

デスティネーションキャンペーン

10月1日から秋田DCが開催されており、全国から多くの観光客が訪れています。

これを機に観光関係事業者が連携し、秋田の魅力を全国の方々に知ってもらうことで秋田県全体の観光振興につながっていくことでしょう。

そこで、このコーナーでは「にかほ市観光案内人」が考える、にかほ市の魅力を市民の方々に紹介したいと思います。DC本番にむけ市民のみなさんも当市の魅力に誇りをもって頂ければという思いで、お送りします。



次に、本堂の扁額は神宮皇后伝説の「干珠満珠」を連想させる「蚌満珠禅寺」とあり、本堂に張り巡らされている青色の幕と屋根の鬼がわらには北条氏の三つ鱗の紋が使われています。これは正嘉年間(1257～1259年)北条時頼がこの地に立ち寄り田地と寺の修理のお金を寄付した御縁によるものです。

さて、蚌満寺を含む九十九島の美しさは古来より歌枕の“象潟”として歌に詠まれ、多くの文人墨客が訪れています。「象潟や雨に西施がねぶのはな」の俳句を詠んだ松尾芭蕉も“奥の細道”の中で「松島は笑うが如く、象潟はうらむがごとし・・・」とその美しさを松島と並び賞していました。

ところが文化元年(1804年)の大地震で湖底が2メートル以上隆起して陸地になってしまいました。その3年後には本荘藩の命で山を削り開墾がすすめられました。蚌満寺の覚林和尚は「景観が失われる」と藩に再三申し入れをしましたが、無視されたので、和尚は京に上り閑院宮家の祈願所とすることを願い出て許されました。本荘藩の怒りを買った覚林和尚は江戸へ逃れますが、ここで捕えられ、5年後の文政5年(1822年)本荘の牢獄で亡くなります。今ここにある九十九島の景観は己が命を賭した覚林和尚の活動があったからです。今風にいえば、覚林和尚は自然保護活動をしたのです。ここで思い出されるのは自然保護運動の父と言われるアメリカ人ジョン・ミューア(1834～1914年)です。しかし彼は覚林和尚が亡くなってから生まれています。と、いうことは覚林こそが世界で初めて自然保護活動をした人と言えます。

まずは、「象潟さんぽみち」の地図“九十九島コース”(5.4km)の標識をたどって歩き、ねむの丘の6階展望室から九十九島を見下ろしてみましょう。

九十九島には一つ一つに名前が付いています。動物の名、鳥の名、魚貝の名、植物の名、また島でなく“〇〇森”と言う名の島もあります。このようなグループ別のこだわりの島めぐりは如何でしょう。

にかほ市観光案内人協会 岩谷 忠也



企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所
〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地
☎0184-43-3200(代表) ☎0184-43-7510(直通)
電子メールアドレス info@city.nikaho.lg.jp

広報「にかほ」は、にかほ市ホームページでもご覧いただけます



第29回 国民文化祭・あきた2014

平成26年10月4日(土)～11月3日(月・祝)

ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp>

シリーズ第5回

「にかほの魅力」

～蚌満寺と九十九島～

まず、蚌満寺からご案内します。開基されてから千年以上も経つ古いお寺です。“拝観のしおり”に書いていない見どころを幾つかご紹介しましょう。

山門の扁額の回りに中国の二十四孝の“冬に病気の母親のためにタケノコを掘った話、虎の前に身を投げ父を救う息子等の話”が彫られています。仁王様は正面を向かず、海風を避けるため横向きになっています。山門の瓦の先端には閑院宮家の祈願所として菊の御紋章が付いています。